

トラック輸送情報（平成18年7月分）

平成18年10月11日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：浅見、安達 内線28315

直通：03-5253-8344

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

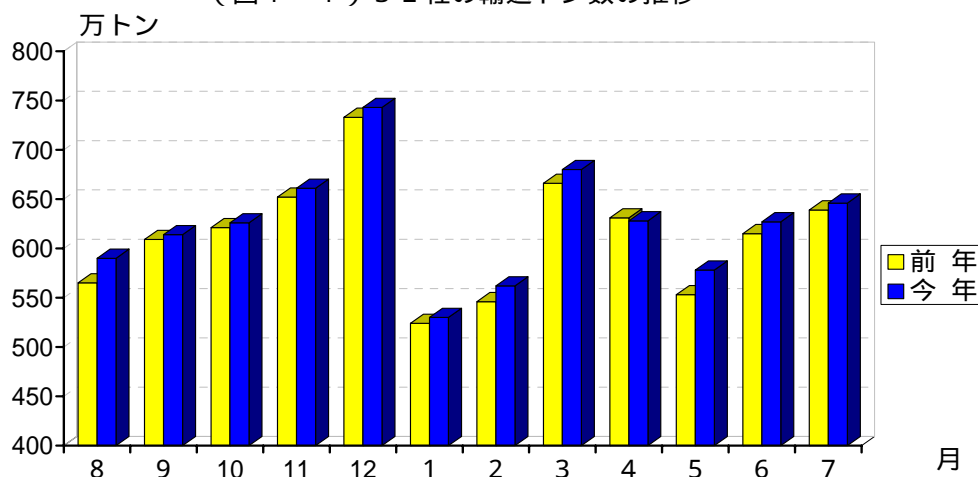
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,455,123トンで、前月と比べ、総輸送量が約19万トン増加したため、前月比103.0%（季節調整済み95.6%）前年同月と比べ、約6万トン増加したため、前年同月比101.0%の実績であった。

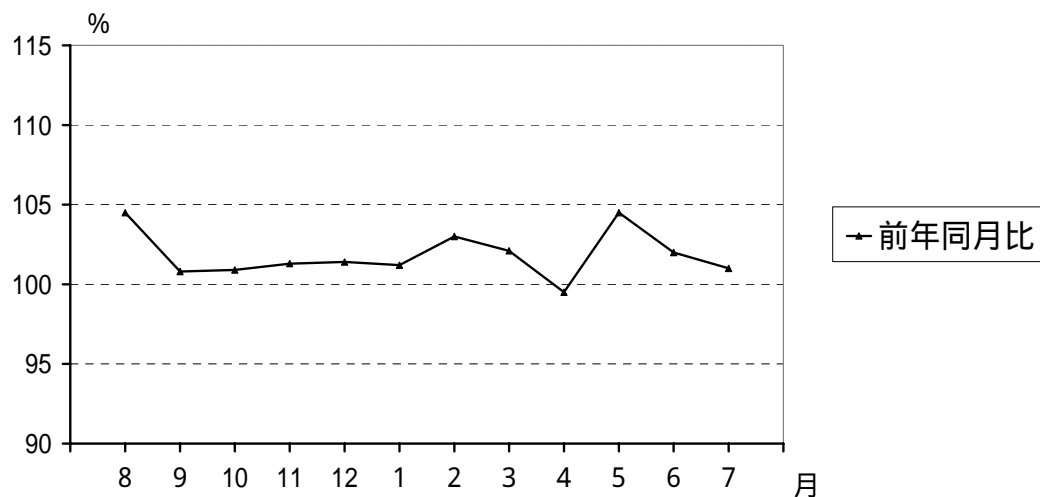
なお、平均稼働日数は24.4日で、前月と比べ0.9日の減少、前年同月と比べ0.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、264,554トンで、前月と比べ、約1万7千トン増加したため、前月比106.8%、前年同月と比べ、約4千トン増加したため、前年同月比101.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

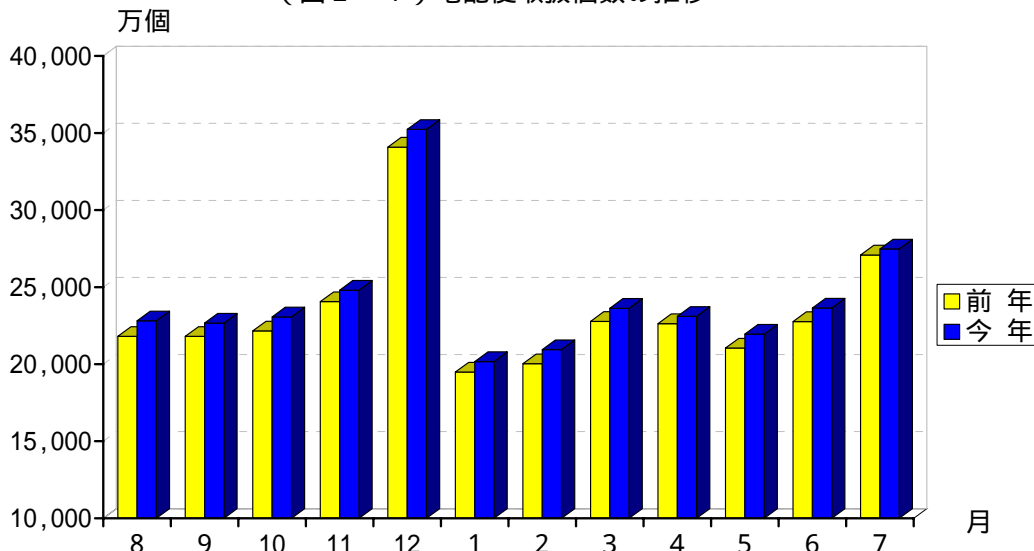


(2) 宅配便の概況

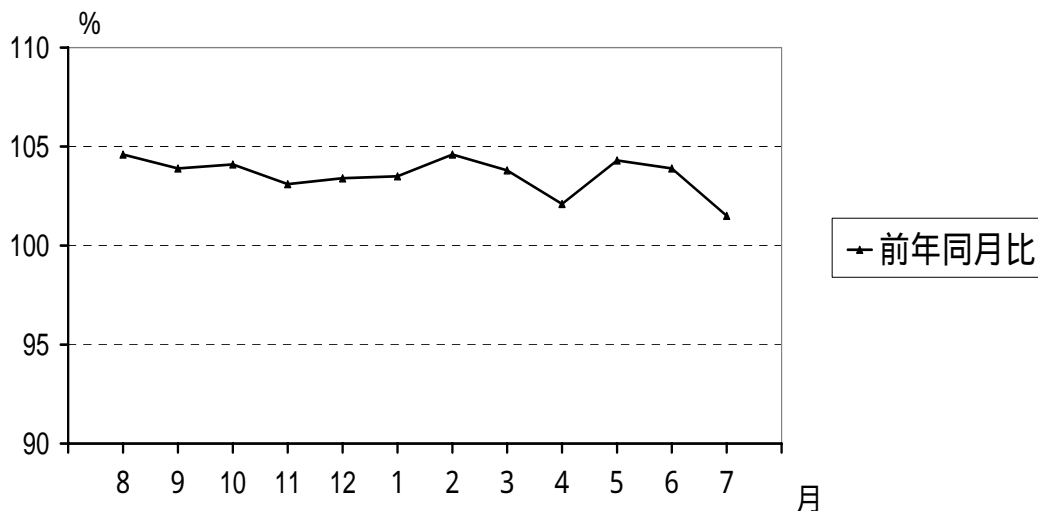
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、274,781 千個で、前月と比べ、約 3,834 万個増加したため、前月比 116.2% (季節調整済み 97.7%)、前年同月と比べると、約 392 万個増加したため、前年同月比 101.4%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、お中元期の影響で、農水産品 (青果物)、その他 (宅配便、百貨店配送品) の貨物の輸送量が増加した。理由としては、季節的需要増であった。一方、金属製品、機械、化学工業品、繊維工業品及び食料工業品では貨物の輸送量が減少し、理由としては、工場・生産地からの貨物減、季節的需要減であった。地域的には、農水産品が東北で、その他が全国で輸送量が増加した。一方、金属製品が北陸信越及び四国で、機械が関東及び愛知で、化学工業品が神奈川、関東及び大阪で、繊維工業品が神奈川、関東、近畿及び中国で、食料工業品が大阪及び中国を中心にそれぞれ減少した。

前年同月と比べると、その他 (宅配便) の品目でデパート、スーパーの貨物に増加が見られた。一方、金属製品、機械では工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、化学工業品及び食料工業品が東京で、日用品が東京及び大阪で、その他が神奈川及び大阪を中心にそれぞれ増加した。一方、機械が関東及び愛知で、繊維工業品及び食料工業品が近畿で、日用品が関東を中心にそれぞれ減少した。この結果、全体としては、対前年同月比 101.0%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	13	1	1	青果物	東北	
	金属製品			22	4	1	その他の金属製品	北陸信越、四国	4
	機械			21	5		その他の機械、機械部品	関東、愛知	4
	化学工業品			23	7		その他の化学工業品	神奈川、関東、大阪	4, 7
	繊維工業品		2	23	4			神奈川、関東、近畿、中国	
	食料工業品		2	19	6		飲料		
							その他の食料工業品	大阪、中国	8
	日用品	2	1	21	5		その他の日用品		
前 年 同 月 に 比 べ て							書籍・印刷物		5
	その他	5	3	16	4		宅配便、百貨店配送品	全国	8
	農水産品		3	14		1	野菜、青果物		
	金属製品		4	17	5	1	その他の金属製品	関東地方、兵庫	4
	機械		3	17	6	1	その他の機械、機械部品	関東、愛知	4
	化学工業品	1	2	22	5			東京	
							その他の化学工業品		
	繊維工業品		3	22	4		織物	近畿	
前 年 同 月 に 比 べ て	食料工業品		4	17	6		飲料、その他の食料工業品	東京	
							その他の食料工業品	近畿	
	日用品		4	19	4	1	その他の日用品	東京、大阪	
							書籍・印刷物	関東	
	その他		6	17	5			神奈川、大阪	2
						宅配便			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 865 社 / 調査対象事業者数 1,092 社）の輸送量は、前月比 101.1%、前年同月比 101.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	101.1%	107.4%	99.1%	98.2%	100.6%	98.0%	95.0%	104.9%	99.8%	98.8%	96.0%
前年同月比	101.0%	102.4%	100.0%	104.6%	99.5%	98.2%	98.2%	103.6%	103.0%	99.7%	88.3%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 107.4%、対前年同月比は 102.4%であった。品目別には、先月に引き続き建設関係の需要増に伴う「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加し、また「穀物」、「その他の農産品」、「水産品」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量も増加した。一方、「鉄鋼」、「廃棄物」が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 99.1%、対前年同月比は 100.0%であった。品目別には、夏期農作物の収穫の時期に入り、季節的な需要も多い「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が増加した。一方、建設関係の受注・需要減により「木材」、「砂利・砂・石材」等が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 98.2%、前年同月比は 104.6%であった。品目別には、収穫期やお中元シーズンなど季節的需要の増加により、「野菜・果物」、「水産品」、「食料工業品」、「取り合せ品」の輸送量が増加した。一方、「機械」、「動植物性飼・肥料」、「その他」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 100.6%、対前年同月比は 99.5%であった。品目別には、「鉄鋼」、「揮発油」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少し、その他、「食料工業品」の輸送量も減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 98.0%、対前年同月比は 98.2%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加し、その他、「機械」、「その他」の輸送量が増加した。一方、「その他の農産品」、「繊維工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 95.0%、対前年同月比は 98.2%であった。品目別には、「取り合せ品」、「その他」の輸送量が増加した。一方、中元時期が終わり「食料工業品」の輸送量が減少した。その他、「繊維工業品」等の輸送量も減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 104.9%、対前年同月比は 103.6%であった。品目別には、中元時期を迎え、宅配便の需要増により、「取り合せ品」の輸送量が増加し、夏場の飲料水需要から、「食料工業品」の輸送量も増加した。また、山陰地方の大雨の影響で建設機器の運搬による「機械」の輸送量も増加した。一方、「セメント」、「その他の化学工業品」、「日用品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.8%、対前年同月比は 103.0%であった。品目別には、季節的需要増により「水産品」、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により「機械」の輸送量が減少し、季節的需要減により「野菜・果物」、「化学肥料」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 98.8%、対前年同月比は 99.7%であった。品目別には、「機械」、「その他」等の輸送量が増加した。一方、季節的要因による出荷の減少により、「野菜・果物」の輸送量が減少し、建設需要の減少のため、「砂利・砂・石材」、「セメント」、「その他の窯業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 96.0%、対前年同月比は 88.3%であった。品目別には、季節的需要増により、「食料工業品」（ビール・清涼飲料水）、「取り合わせ品」の輸送量が増加し、その他、「水産品」、「金属鉱」、「繊維工業品」の輸送量も増加した。一方、「その他の農産品」、「木材」、「金属くず」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増	2	4							2		8	
	減				2			1		1		4	
2. 野菜・果物	増	1	7	2	3					2		15	
	減		3	1	3				3	5		15	
3. その他の農産品	増	2		1								3	
	減			1		1					1	3	
4. 畜産品	増	1		1								2	
	減										1	1	
5. 水産品	増	4		1					2		1	8	
	減	1	1							1		3	
6. 木材	増	2	1		1			1		1		6	
	減	2	3	1	2					2	1	11	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	1						1				2	
	減				2							2	
9. 金属鉱物	増		1			1					1	3	
	減		1									1	
10. 砂利・砂・石材	増	17			1			1	1	1		21	
	減	4	2		3		1	1	1	5		17	
11. 工業用非金属鉱物	増	2	1							1		4	
	減		1									1	
12. 鉄鋼	増		1	1	4			2	1	1		10	
	減	1			1		1	3		2		8	
13. 非鉄金属	増												
	減		1	1	1							3	
14. 金属製品	増					1	1	2		2		6	
	減		2	1	2		1	2		1		9	
15. 機械	増	1	2	1	3	2	2	3		5	1	20	
	減	1		4	1		2	1	1	2	1	13	
16. セメント	増	4	1		2	1			1			9	
	減				5			2	1	2		10	
17. その他の窯業品	増	1	2		2	1				3		9	
	減		1		3		1			5		10	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	1			4				1	1	
18. 揮発油	減											
19. その他の石油製品	増	2			1		1	1		1		6
	減	1	1		1		2		1	1		7
20. コークス・ その他の石炭製品	増	2			1							3
	減											
21. 化学薬品	増		1		1					1		3
	減							1				1
22. 化学肥料	増				2							2
	減			1				1	1	1		4
23. その他の化学工業品	増				1		1					2
	減						1	2				3
24. 紙・パルプ	増	1	2	1	1	1	1	1		1		9
	減			2			1	2	1	3		9
25. 繊維工業品	増										1	1
	減					1	2					3
26. 食料工業品	増	2	5	2		2		6	6	2	1	26
	減		4	1	3		4	4	1	1		18
27. 日用品	増	1		2		1			1	4		9
	減	1	1	3		1		2		3		11
28. その他の製造工業品	増		1		3	1		2		2		9
	減		2			2	1	1		1		7
29. 金属くず	増											
	減										1	1
30. その他のくずもの	増											
	減							1				1
31. 動植物性飼・肥料	増	4							1			5
	減	1		2						1		4
32. 廃棄物	増					1				1		2
	減	1		1		1				2		5
33. 輸送用容器	増	1	1					2	1			5
	減							1				1
34. 取り合せ品	増		1	1			1	2			2	7
	減									1		1
35. その他	増				1	3	1	1		3		9
	減			2	2			1	1			6